

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：33801

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K14040

研究課題名（和文）地域連携協働による実践的防犯教育プログラムの開発と検証

研究課題名（英文）Development and verification of a practical crime prevention education program through regional cooperation and collaboration

研究代表者

木村 佐枝子（KIMURA, Saeko）

常葉大学・健康プロデュース学部・教授

研究者番号：80410497

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では地域連携協働型の防犯教育プログラムを開発し、若者の防犯ボランティアを育成することを目的とした。その結果、正課教育プログラムにおいては、フィールドワーク前後において防犯意識の向上が見られ、防犯ボランティアの興味関心も高まった。しかし、主体的な防犯ボランティアのアクションに繋がった学生は一部であった。地域と連携協働した小学校連携プログラムやゼミ、サークルにおける継続した地域防犯活動により、被害防止能力、地域への愛着心、コミュニケーション能力が高まった。共通の目的を持ち活動することで地域の安心安全に貢献することで防犯意識の向上に繋がったと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、地域連携協働型の防犯教育に焦点をあて、大学教育において防犯ボランティアの人材育成を試みた。正課教育においては、フィールドワークを中心とした防犯教育プログラムの機会の提供は、学生の防犯意識の向上に繋がった。また、地域と連携協働した小学校連携プログラムでは、防犯アプリの活用によりICTのスキル向上に繋がった。ゼミやサークルを中心とした防犯ボランティア活動は、地域防犯の若い担い手の創出、警察署や防犯協会、地域防犯ボランティアと連携した防犯活動により防犯ボランティアが抱える高齢化の課題に貢献することができたと考えられる。今後も安心安全な街づくりのために持続可能な活動にしていく必要がある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop a crime prevention education program in collaboration with the local community and to foster crime prevention volunteers among young people. As a result, in the regular education program, crime prevention awareness was improved before and after the fieldwork, and interest in crime prevention volunteerism was also increased. However, only a few of the students were able to take independent action as crime prevention volunteers. The elementary school cooperation program in collaboration with the local community, as well as ongoing community crime prevention activities in seminars and clubs, enhanced the students' ability to prevent damage, their sense of attachment to the community, and their communication skills. It is thought that the activities with a common purpose contributed to the safety and security of the community, which led to an increase in crime prevention awareness.

研究分野：高等教育、防犯教育

キーワード：高等教育 地域との連携・協働 実践的防犯教育プログラム 防犯ボランティア 地域防犯の若い担い手 地域貢献 フィールドワーク 防犯アプリ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

川崎市登戸でスクールバスを待つ児童ら 20 人が殺傷された痛ましい事件が発生した。登下校中の児童の安全を確保するためには「地域における連携の強化」が課題とされている。また、警察庁(2019)によれば、防犯ボランティアの構成員の平均年齢別団体数は、仕事を引退した 60 代が 67.8%を占め、防犯ボランティアの高齢化が顕著となっている。一方で、10 代、20 代の防犯ボランティアの構成員は、わずか 1.8%に留まっているため、若者が防犯ボランティアに参加する仕組みづくりが必要であると考えられる。

このような背景のもと、文部科学省(2015)は、地域が連携協働して取り組む「地(知)の拠点大学による地域創生推進事業」を実施している。この事業では、地域が求める人材を養成するために必要なカリキュラムを実践するため、地域が連携協働して、若者を養成することの意義が示されている。

高等教育において若者が防犯教育にかかわることで自身の規範意識向上にもつながり、若者が加害者・被害者となる犯罪抑止効果も期待できる。また、地域の若者が規範意識を向上させることが結果として地域の犯罪抑止や安全安心な街づくりにもつながると考える。

高等教育において、若い世代の人材を養成し、若者が防犯ボランティアとして地域で積極的に活動し地域貢献を実践していくことは、社会のニーズに合致したものであり、地域に貢献できる学生を社会に送り出すことは大学の使命である。

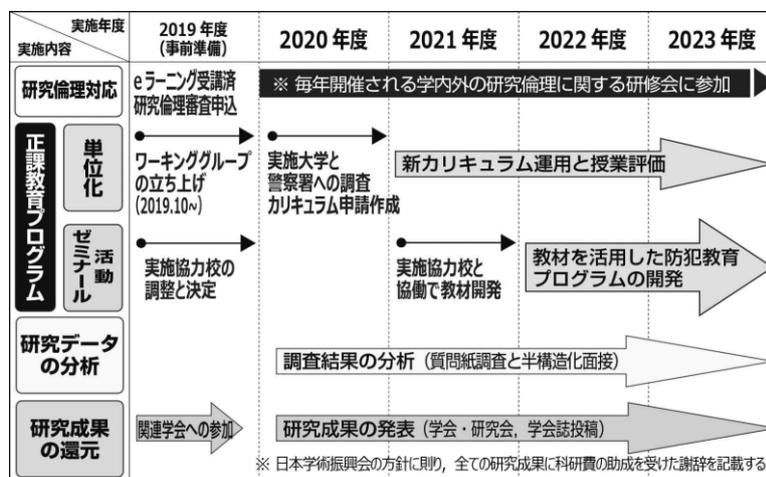
2. 研究の目的

我が国の高等教育の将来像(2005)では、「社会貢献」を大学の第三の使命とした。つまり、社会貢献できる人材の育成は高等教育の重要な役割である。その中でも本研究では、地域連携協働型の防犯教育に焦点をあてる。防犯ボランティアが抱える現実的な課題として、高齢化問題があげられる。そこで、大学教育において防犯ボランティアの人材育成や地域貢献が期待されている。一方でその地域連携協働を核にした養成プログラムは学術的に未だ開発されておらず、その効果や成果の検証は不十分である。

本研究では、若者の防犯ボランティアを育成するため、地域連携協働型の実践的防犯教育プログラムを開発し、質問紙および半構造化面接から、その効果を検証することを目的とする。さらに、地域が連携協働することにより見出された新たな知見から、若者の防犯教育、地域貢献活動の指針を提供できることが期待される。

3. 研究の方法

1. 防犯教育プログラム開発のためのカリキュラム検討のWGを立ち上げる。
2. WGで検討したプログラムを連携協働先とシミュレーションを行い、実践に向けた検証を行う。
3. 大学教育の授業(15回)の授業評価に加えて、質問紙調査により量的検討を行う。さらに、受講学生に半構造化面接を行い、質的検討によるトライアングレーションから総合的に授業評価を行う。
4. 小学校と地域との連携協働による実践活動を行い、児童、教員、大学生、地域等に質問紙および半構造化面接を行い、開発プログラムの有効性を検証する。
5. 防犯教育プログラムの構築、防犯への若者の参画という短期目標と地域の安全安心サイクルの構築という長期目標の2本立てで長い視点にたつて追跡調査していく。
6. 成果報告書を作成する。一般にも研究成果を還元する。



\* 正課外において自主的に防犯ボランティア活動を行えるよう地域貢献センターで情報発信、活動の機会の提供を行う。

\* 正課外活動の成果として、静岡県青少年級別認定事業に申請する。

## 4. 研究成果

本研究の成果として、報告書を作成した。

木村佐枝子：「地域連携協働による実践的防犯教育プログラムの開発と検証」報告書  
1—69, 2024

研究計画

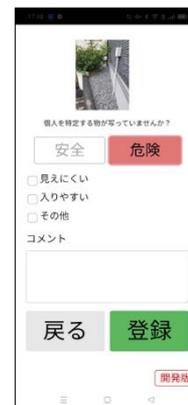
### 第1章 大学生の防犯意識 授業としての成果報告

授業概要説明/安全教育学

フィールドワークの方法

【防犯 Web アプリ「歩いてミイマイ」を活用したフィールドワーク】

防犯ウォーキングアプリ「歩いてミイマイ」は、香川大学のチームが開発したもので、小宮（2005）の地域安全マップづくりの手法に基づき、危険箇所「入りやすい・見えにくい」と安全箇所「入りにくい、見えやすい」をアプリの地図上にプロットし、可視化するものである。危険箇所には赤いフラッグ、安全箇所は青のフラッグが地図上に示され、それらをタップすると写真とコメントが掲載されている。開発当初は Android のみの運用であったが、2022 年にはクラウドファンディングが行われ、どの端末からも使用できるアプリとなっている。



【交通安全 Web アプリ「ヒヤリハットチェッカー」を活用したフィールドワーク】

交通安全アプリ「ヒヤリハットチェッカー」も同様に香川大学チームによる開発されたものである。ヒヤリハットなどの危険箇所について点検するアプリである。このアプリでは、ヒヤリハットが起りやすい場所をプロットすることで確率論としての交通事故が起りやすい場所を黄色のフラッグで可視化することができる。現在は Android のみの運用となっている。

【授業内でのフィールドワークの想定】

常葉大学附属とこは浜松小学校がキャンパス内にあるという想定のもと、防犯と交通安全の視点からグループでフィールドワークを行う。

① (防犯) 児童の登下校を想定し、通学路地域の危険・安全箇所をチェックする。

危険：「入りやすい」「見えにくい」安全：「入りにくい」「見えやすい」

② (ヒヤリハット) 児童の登下校を想定し、通学路地域ヒヤリハットが起りやすい場所をチェックする。

【フィールドワーク】

グループ毎に想定のもとフィールドを行う。フィールドワークの活動の結果をパワーポイントにまとめて発表する。



2021 年度 安全教育学グループワーク

2022 年度 安全教育学グループワーク

2023 年度 安全教育学グループワーク

### 第2章 小学校での活動報告 萩っ子セーフティキッズプロジェクト (HSK)

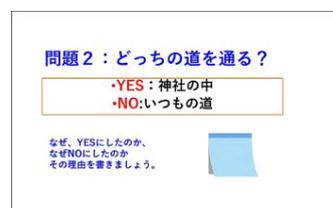
①導入授業：4 年生 (2021 年度)：プロジェクトの説明、防犯に関する事前学習。

JST の「犯罪からの子どもの安全」プロジェクトの教材の活用。大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンターが管理し、使用希望のあった全国の教育委員会に対して無償提供されている。本研究での使用許可を得ている。

②防犯プロジェクト (2022 年度)：防犯フィールドワーク、発表会

2022 年度【5 年生】(防犯)

- 1) 活動前活動後のアンケート調査 (児童+教員)
- 2) 教員向け安全教育学研修 (講師：木宮敬信先生)
- 3) 防犯フィールドワークにむけた授業 (講師：木村佐枝子)  
環境教育とのリンク (地域の防犯環境)
- 4) 防犯フィールドワークのワークシート作成
- 5) 香川大学防犯アプリ「あるいてミイマイ」を使用したフィ



ールドワーク①（児童・教員・CS等）

- 6) 香川大学防犯アプリ「あるいてミイマイ」を使用したフィールドワーク②（大学生・地域ボラ・警察・自治会等）
- 7) チェック項目の検証（こどもの目、大人の目の違い）・振り返りの授業（講師：木村佐枝子）
- 8) 発表会にむけた準備
- 9) 良い子を育てる会・発表会/授業公開日発表会



③交通安全プロジェクト（2023年度）：交通フィールドワーク、発表会  
2023年度【6年生】10時間程度

- 1) 活動前活動後のアンケート調査（児童+教員）
- 2) 通学路のヒヤリハットマップの作成（1学期）
- 3) ヒヤリハット/フィールドワークにむけた授業（講師：木村佐枝子）  
キャリア教育とのリンク（地域のボランティア、交通に関連した職業等）
- 4) ヒヤリハット/フィールドワークのワークシート作成
- 5) 香川大学アプリ「ヒヤリハットチェッカー」を使用したフィールドワーク①（児童・教員・CS等）
- 6) 香川大学アプリ「ヒヤリハットチェッカー」を使用したフィールドワーク②（大学生・地域ボラ・警察・自治会等）
- 7) チェック項目の検証（こどもの目、大人の目の違い）・振り返りの授業（講師：木村佐枝子）
- 8) 発表会にむけた準備
- 9) 発表会（交通安全リーダーと語る会）



## <取材>

静岡新聞社、中日新聞社、静岡朝日テレビ、NHK 静岡放送局、テレビ静岡

## 第3章 学生のボランティア活動

**まもろーる：**

地域小学校での下校見守り活動。児童の下校時間に合わせて、自宅近くまで送り届ける防犯ボランティア活動。

**まもちやり：**

授業の空き時間を利用して、地域を自転車でパトロールする活動。授業の隙間時間にできる防犯ボランティア活動活動。

**しずおかランニングパトロール：**

地域小学校において下校時間帯にランニングをしながらパトロールを行う。しずおかランニングパトロールのサイトに活動報告をあげている。

**活動団体：**木村ゼミ、

ボランティアサークル ThunderBirds



## **第4章 研究成果**

### **【学会発表】**

1) 日本安全教育学会第22回東京大会 2021年9月10日  
交通安全アプリを活用した実践活動に関する研究—しずおかランニングパトロールを事例として—

発表者：木村佐枝子、木宮敬信、大久保智生、米谷雄介

2) 社会貢献学会, 第12回大会(神戸学院大学) 2021年12月18日(土)

地域中学校におけるヒヤリハットマップ作成の教育的効果に関する研究

発表者：木村佐枝子

3) 日本安全教育学会第23回宮城大会 2022年9月10日(土)

「小学生を対象とした防犯教育プロジェクト導入授業の展開」—e-learning教材を活用した取り組み事例—

発表者：木村佐枝子・木宮敬信・八木利津子

4) 社会貢献学会第14回大会 2023年12月16日(土)

「大学生の防犯意識・交通安全意識・防災意識の変化に関する研究」

発表者：木村佐枝子

### **【成果論文】**

1) 木村佐枝子、木宮敬信：「学校安全における地域連携型組織活動の展開」—大学生の防犯実践活動の事例から—, NGO活動研究(NERC JOURNAL) 巻：19-1, 2020, 13-26

2) 木村佐枝子、木宮敬信、八木利津子：コロナ禍におけるヒヤリハットマップ学習に関する実践研究—自転車通学が多数を占める中学校を事例として—, NGO活動研究(NERC JOURNAL)、巻：第21巻第2号, 2022, 1-11

3) 木村佐枝子：防犯教育プロジェクト導入授業の教育的効果の検証—e-learning教材を活用したグループワークを事例として—, 社会貢献学研究 巻：6-1, 2023, 19-26

4) 木村佐枝子・木宮敬信：小学生を対象とした地域連携・協働型防犯教育の効果検証—防犯アプリを活用した実践活動事例—, 常葉大学浜松キャンパス教職課程第1号 2024, 11-21

5) 木村佐枝子：大学生の安全教育に関する意識の変化と効果に関する研究  
社会貢献学研究, 2024年(投稿中)

## **第5章 新聞掲載記事**

### **研究協力者**

- ・木宮 敬信教授 常葉大学教育学部
- ・八木 利津子教授 桃山学院教育大学
- ・大久保 智生准教授 香川大学教育学部
- ・山田 雅敏准教授 常葉大学経営学部
- ・浜松市教育委員会
- ・浜松市立萩丘小学校
- ・静岡県警
- ・静岡県警浜松中央署 生活安全課
- ・静岡県警浜松中央署 交通課
- ・浜松市デジタルスマートシティ推進部
- ・株式会社NTT ドコモ
- ・常葉大学浜松地域貢献課

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 木村佐枝子	4. 巻 6 - 1
2. 論文標題 防犯教育プロジェクト導入授業の教育的効果の検証 e-learning 教材を活用したグループワークを事例として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会貢献学研究	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村佐枝子, 木宮敬信, 八木利津子	4. 巻 第21巻第2号
2. 論文標題 コロナ禍におけるヒヤリハットマップ学習に関する実践研究 - 自転車通学が多数を占める中学校を事例として -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NGO活動研究(NERC JOURNAL)	6. 最初と最後の頁 1 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村佐枝子 木宮敬信	4. 巻 19 - 1
2. 論文標題 「学校安全における地域連携型組織活動の展開」 大学生の防犯実践活動の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NGO活動研究 (NERC JOURNAL)	6. 最初と最後の頁 13 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村佐枝子, 木宮敬信	4. 巻 1
2. 論文標題 小学生を対象とした地域連携・協働型防犯教育の効果検証 - 防犯アプリを活用した実践活動事例 -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 常葉大学浜松キャンパス教職課程第1号	6. 最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 木村佐枝子・木宮敬信・八木利津子
2. 発表標題 小学生を対象とした防犯教育プロジェクト導入授業の展開 e-learning教材を活用した取組事例
3. 学会等名 日本安全教育学会第23回宮城大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木村佐枝子
2. 発表標題 地域中学校におけるヒヤリハットマップ作成の教育的効果に関する研究
3. 学会等名 社会貢献学会，第12回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木村佐枝子、木宮敬信、大久保智生、米谷雄介
2. 発表標題 交通安全アプリを活用した実践活動に関する研究 しずおかランニングパトロールを事例として
3. 学会等名 日本安全教育学会第22回東京大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木村佐枝子
2. 発表標題 大学生の防犯意識・交通安全意識・防犯意識の変化に関する研究
3. 学会等名 社会貢献学会第14回大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

県内初、防犯アプリで萩丘小学校の通学路点検を行いました / 心身マネジメント学科  
<https://www.tokoha-u.ac.jp/news/220519-1/>  
通学路の危険箇所、アプリに登録 浜松・萩丘小児童ら歩いて点検  
<https://www.at-s.com/sp/news/article/shizuoka/1087103.html?fbclid=IwAR3ZGnfq40SuczXBqZnr5EtLWrucKlIn8hSY6eEuCpwZrN9BiVMKKS4IjuQ>  
危険な場所、安全な場所をみんなで共有 スマホのアプリで地図上に登録 浜松市で通学路の点検  
[https://look.satv.co.jp/\\_ct/17541923](https://look.satv.co.jp/_ct/17541923)  
通学路の危険箇所は？ 浜松・萩丘小 防犯アプリで児童が調査  
<https://www.at-s.com/sp/news/article/shizuoka/1189288.htm>  
NERC JOURNAL  
<http://ngo-nerc.org/category/nerc%e3%80%80journal/>

#### 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	木宮 敬信  (Kimiya Takanobu)	常葉大学	
研究協力者	八木 利津子  (Yagi Risuko)	桃山学院教育大学	
研究協力者	大久保 智生  (Okubo Tomoo)	香川大学	
研究協力者	山田 雅敏  (Yamada Masatoshi)	常葉大学	

#### 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------